

日本の学術ゲノム ～ 間主観性マトリクスの検証

Logic verification about scholarly genome of Japan ~ about inter-subjective matrix

研究要覧 '15～'16

前提(公3事業):⇒ 『当財団は、自然科学分野の学術研究助成及び褒章、並びに文化としての豊かな感性を育成するために、音楽に関する助成を行い、我が国の学術・文化の発展に寄与するとともに、人類の文化における自然科学研究の価値を、自然科学と人文科学の両面で正しく評価する基盤を確立するための調査研究を行い、その成果を世に問うことを目的とする。』

(平成22年12月8日内閣府認定書「目的及び事業」より)

日本の学術界の今日的事情に於ける本研究の位置づけ:⇒ 平成27年の学術界は「大学の文系学部の見直し」(文科省通達)と「大学グローバルランキング」(英国T.H.E.)の世論に沸いた年だったが、前者については逆に理系からも反論が相次ぎ、「人文科学の軽視は大学教育全体を底の浅いものにしかねない」と産学両側から厳しい反論が出て、文科省は通達の火消に走る事態(日本学術会議大西隆会長)になった。後者については、「日本の学術は欧米の学術用語の日本語化に成功し、逆に今は日本語の学術概念を欧米語化して海外発信する高度なグローバル化のプロセスを踏んでおり、それこそ真のグローバル精神である」(日経オピニオン盤側)とする反論が起こり、発端となったT.H.E.自体が「日本版の大学グローバルランキング」の策定を計画するようになった。東京大学の五神真総長も「世界に卓越した多様性連関の知の創造と大学院の学際化」に向けた新方針を打ち出した。

上記のごとき世論の経緯は、当財団における「自然科学と人文科学の両面性(論理結合)」と「日本の学術の勿体性理論」の確立という研究の公益的基盤を示唆しているので、計画どおり「日本の学術ゲノム～間主観性マトリクス」(The verification about scholarly genome～about inter-subjective matrix)の検証の段階に作業を進めている。

2016年3月

公益財団法人 松尾学術振

日本の学術ゲノム ～ 間主観性マトリクスの検証

Logic verification about scholarly genome of Japan ~ about inter-subjective matrix

1. 日本の学術ゲノム The scholarly genome of Japan

下節は、日本の学聖として太宰府に祀られている菅原道真の訓戒を編纂した古文書『菅家遺誡』からの引用。日本文化のその後の変遷に鑑みれば、それは日本の学術ゲノムとして解析されるべき人文科学的エビデンスとなる。

The following paragraph is a quotation from the old book "Kan-Ke-Ikai" which edited precepts of Michizane Sugawara who has been enshrined in Dazaifu as the Saint of scholarship of Japan. That is the humanities evidence to be analyzed as the scholarly genome of Japan in view of the subsequent transition of the Japanese culture.

はんこく がく しょ よう すい よくろんしょう こ こんけんてん じん き じ ひ わ こんかんさい ふ のう かんこんおう い

〈直訳文語〉 凡國學所要雖欲論涉古今研天人其自非和魂漢才不能闕闕奧矣

およ こくがく かなめ ところんこん わた てんじんきわ ほつ いえど そ おの わこんかんさい あら こんおう かん あたわ そ
凡そ國學の要とする所 論古今に涉り天人を究めんと欲すると雖も其は自ずと和魂漢才に非ずんば闕奥を闕すること能ず矣。

〈現代語訳〉 凡そ日本の学術性の要諦は、すべての歴史的範囲の宇宙論と人類学について習得したい場合でも、それは自律的に、「和魂漢才」の方法論なしには、疑義の余地がない深い真実の理解をマスターすることができないということである。私は上記の知見を強調しておきたいと思う。

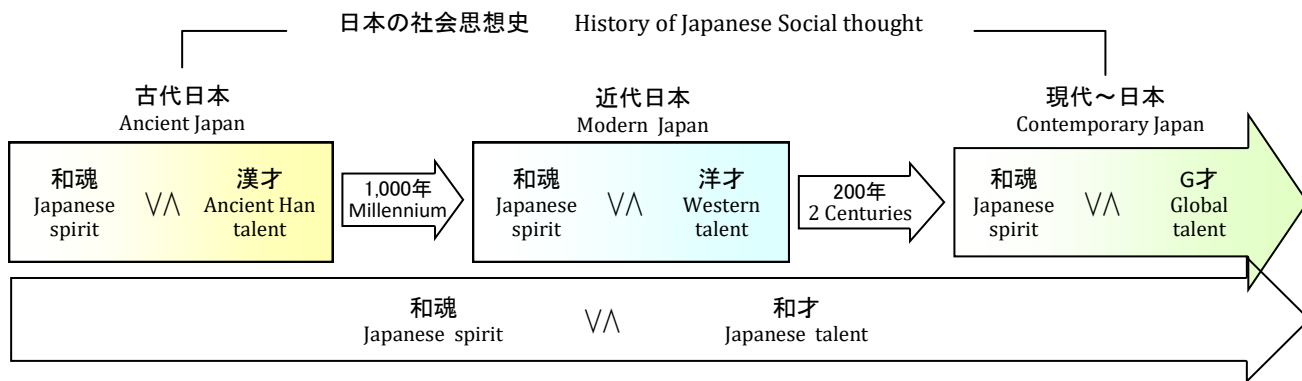
In wholly speaking, the important point of Japanese scholarship autonomously is that anyone cannot master it in the deep apodictic understanding without the methodology of "Wa-Kon Kan-Sai", even if wanting to master about cosmology and anthropology in all historical range. I would like to emphasize the above insight.

〈要約〉 日本の学術は「和魂漢才」の方法論なしにはマスターできない。

The national scholarship of Japan cannot be mastered without the methodology of "Wa-Kon Kan-Sai".

〈主概念〉 「和魂漢才」 "Wa-Kon Kan-Sai" ≡ Ancient Han's learning talent with Japanese spirit

2. 日本の学術ゲノムの起源と進展 The origin and evolution of Japanese scholarly genome



3. 日本の学術ゲノムに於ける二分律含意概念 Dichotomy concepts implied in scholarly genome of Japan

魂	才	魂	才	魂	才	魂	才
精神 spirit	才覚 talent	哲学 philosophy	科学 science	存在論 ontology	目的論 teleology	主観性 subjectivity	客観性 objectivity
理念 idea	現象 phenomena	科学・芸術 science, art	技術 technology	存在価値 ontological value	目的価値 teleological value	間主観性 inter-subjectivity	対照主観性 collative
知恵 wisdom	知識 knowledge	人文科学 humanities	自然科学 nature science	結果的現実 resulted reality	目的恣意 aimed, purposed	固有・オン・ソロ individuality,	部・ホロン・パルテ pert,
知識 knowledge	情報 intelligence	自然科学 nature science	人類学 anthropology	目的 aim, purpose	手段 step, means	全・ホロス・テウティ whole,	部・ホロン・パルテ pert,
心・意 heart, mind	体・態度 body, attitude	人文科学 humanities	社会科学 social science	採択 adoption	選択 selection	親和 philharmonic	編成法 orchestration
動機 motivation	行動 behavior	自然科学 nature science	社会科学 social science	博門論 holistic logic	専門論 expert logic	パラダイム paradigm	マトリクス matrix

4. 日本の人文ゲノム(日本の主観性の自覚)

The humanities genome of Japan (The consciousness of subjectivity of Japan)

汝自身・主観性 = 日本 = 和 という自覚の起源については諸説があるが、国際的状況と国内事情の両面に
Thyself, Subjectivity = Japan = Harmonia 鑑みると、7世紀初頭の聖徳太子親筆として伝えられている以下の2つ文献
が人文科学的なエビデンスとなる。(英独文省略)

① 随書東夷傳倭國傳 にちしゆつしよてんし ち しょにちほつしよてんし むよう 日出處天子致書日没處天子無恙 : ⇒ 日ノ本 ⇒ 日本 ⇒ Nippon ⇒ Japan

<直訳文語> ひいず ところ てんし ひぼつ ところ てんし しょ いた つつが 日出る処の天子、日没する処の天子に書を致す。恙なきや。

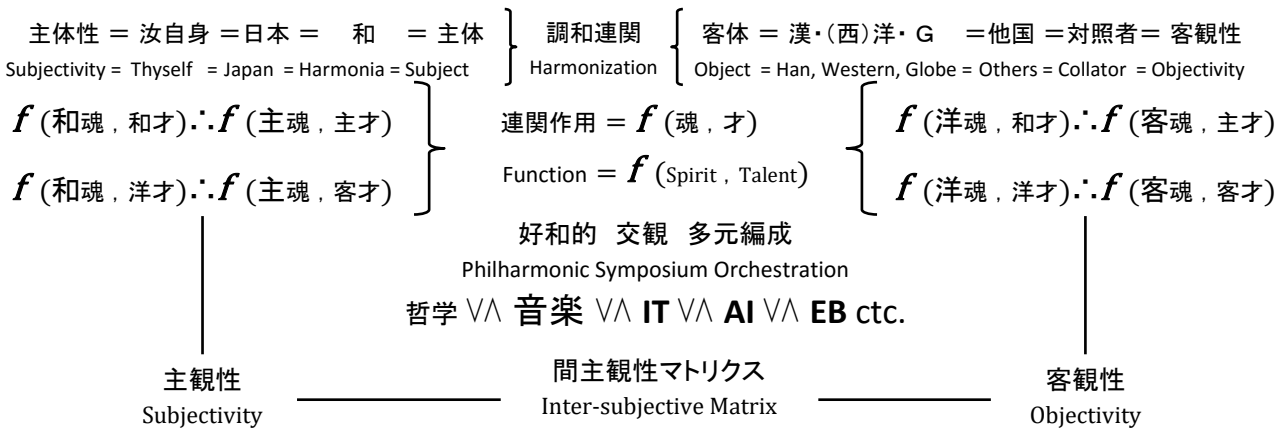
I who is the Prince of sun-rising place will send a personal letter to you who is the Prince of sunset place.
How are you? Are you getting well without illness?

② 十七條憲法一日 じゆななじようけんぽういちえつ い わ い き むかんいそ じんかい ゆうとう えきしやうたつしや 以和為貴 無忤為宗 人皆有黨 亦少達者 : ⇒ 倭 ⇒ 和 ⇒ Harmania (Harmonization)

ぜんじようわけほく かいおろんじ そくじりじつう かじふせい
然上和下睦 諧於論事 則事理自通 何事不成
わ もつ とうと いさかう な むね ひとみなたむら ま さとるものすく しか うえ わ しもむつ
<直訳文語> 和を以て貴しとし、忤こと無きを宗とせよ。人皆黨あり、亦た達者少なし。然れども、上和して下睦み、
こと ろん お かい すなわ こと ことわり おの つう なにごと なら
事を論ずるに於いて諧すれば、則ち、事の理 自ずと通ず。何事か成らざらむ。

<現代語訳> 調和を尊重せよ。不和を作るな。それは、かけがえのない原則だ。誰しも、それぞれの党派に属して
はいても、賢明な人(悟った人)は少ないものだ。だが、しかし、もしも上位層が調和し、下位の層が睦み、問題につ
いての会議する場合に、皆が論理的に言い交すならば、誰もが事々についての疑いの余地のない真実の理解に自
律的に到達するであろう。達成できないことは何もないだろう。

To respect the harmonization and not to make discords, that is the irreplaceable principle or the "Ida Fisso".
Everyone belongs to each factions; but, enlightened people are few.
However if, upper layers harmonize and also lower layers exchange friendship and also everyone communicates logically
in discussing about matters, everyone would reach autonomously to an apodictic understanding about matters.
Nothing would be unattainable.



6. 間主観性マトリクスの研究視点

「間主観性」は西洋哲学発の概念 (E・フッサール現象学のIntersubjektivität, 英語訳はinter-subjectivity)、日本語
では「相互主観性」とか「共同主観性」とも言われる。つまり、複数の主観どうしの間合・互合・共合、一口に言えば、
客観性(Objectivity)と観合する複数の主観性(Subjectivity)どうしの調和法(Harmonization)である。客観的価値
を創造する組織体や組織人の主観性のとり方として近年浮上している概念。特にグローバル化した世界では、事実
の認識や価値の判断が異なる多種多様な主観との「～間対話」や「～間対応」(マルチインタラクション)が必用にな
るので、「間主観性」をもった組織体や組織人が求められる。主観性は文化の個性で異なり、文化の素子である言
語の構造(語順)に表われる。先年(2011)全米科学アカデミー紀要(PNAS)に「語順の起源と進展」(The origin and
evolution of word order)という論文が発表されて日本でも話題になった。ちなみに、欧米語や中国語など世界の
大半の言語は「SVO」(V=verb)だが、日本語は「SOV」。前者は対象の目的価値に鋭敏な主観性、後者は対象の存
在価値に鋭敏な主観性である。主観性は感性と悟性と論理性で発揚されるが、グローバルに共通性の高いのは論
理性。ゆえに、「論理結合子」の見識が役立つようになる。(英独文省略)

日本の学術ゲノム～間主観性マトリクスの論証

Abstract Context

公益財団法人 松尾学術振興財団
常務理事 宅間 克